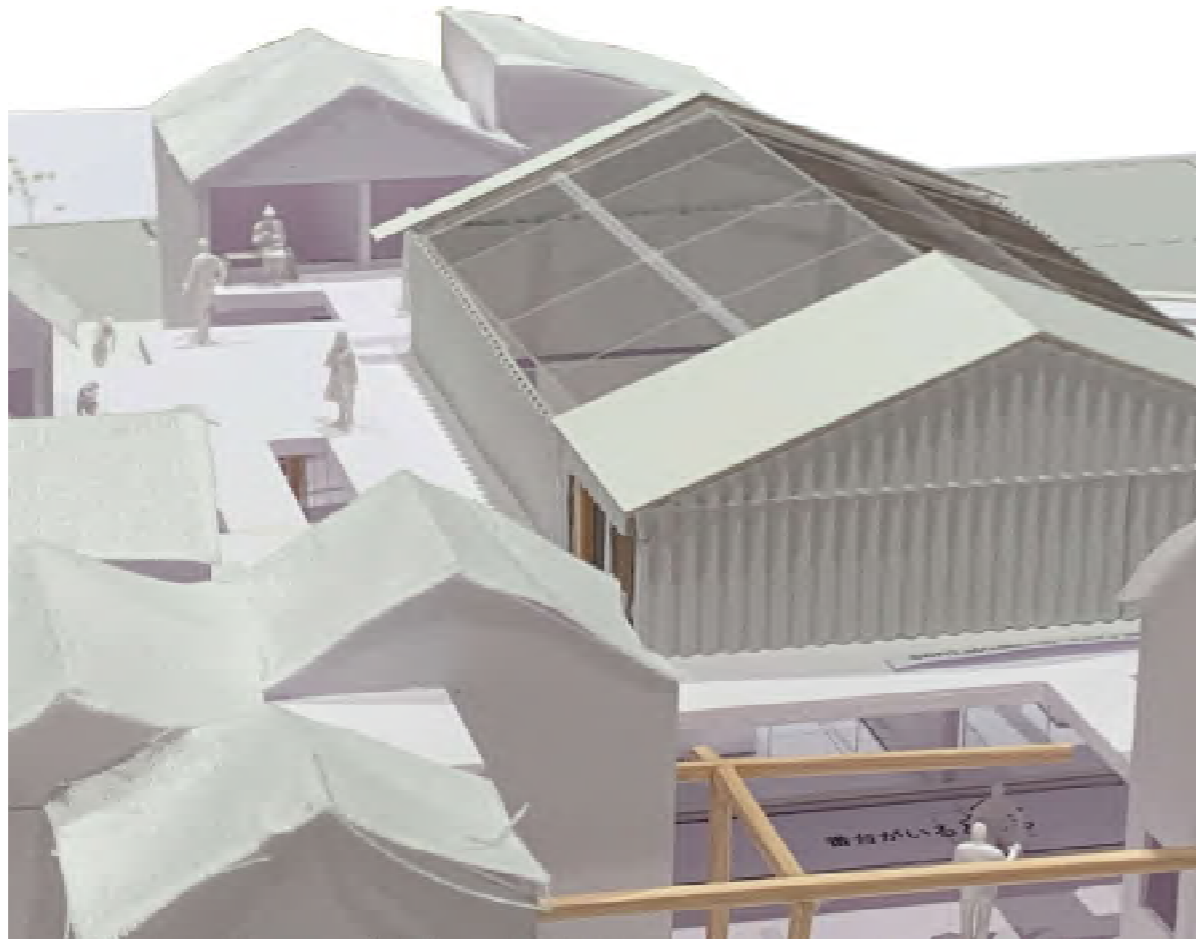


わけあう とき  
share time

集まって暮らす働く  
Gather, Live and Work



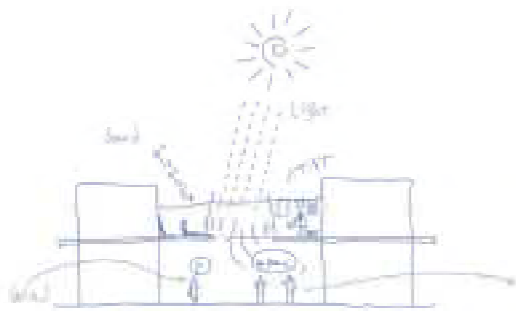
2021年 建築設計 B1

concept

「環境のシェア」  
私の集合住宅の固有の生活機能は「銭湯」である。そこでは会話は必要とされず男湯・女湯がワンルームでまったり声や音、湯気や側窓の光といった環境をシェアすることでコミュニティが成り立っているといえる。この集合住宅では、銭湯のように環境を介して人とコミュニケーションを取り互いに気配を感じ合いながら暮らす空間を検討する。

background

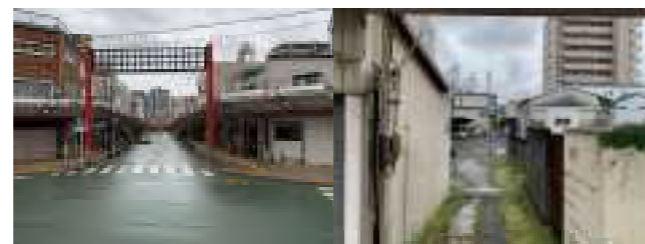
「のびのびと暮らすためには」  
集合住宅と聞くと、そこに住む隣人同士で互いのテリトリーや生活の許容範囲を侵さないように気を遣いながら生活しなければいけないという先入観を持ってしまう。実際、迷惑をかけたり生活を侵害する行為には配慮するのが生活のリテラシーではある。しかし、気遣いが過ぎるのにも息苦しさを覚えるだろう。家族形態や生活スタイルは変化してきている。まさに銭湯の客のように多種多様な。従来の息苦しい暮らしのしわを伸ばすようなのびのびと暮らすための提案が求められる。



「環境のシェア」概念図

site

敷地は、静岡県静岡市葵区浅間神社商店街のサイトBだ。徳川家康が治めた駿府城下町として、浅間神社の門前町として栄えた背景を持つ。商店街は全長約550m、土産・食料品や飲食、生活用品店、オフィス等がアーケードによって軒を連ねている。地元で根差した様相だ。しかし、空き地や空家は増加傾向にあり商店街の空洞化が進んでいる。

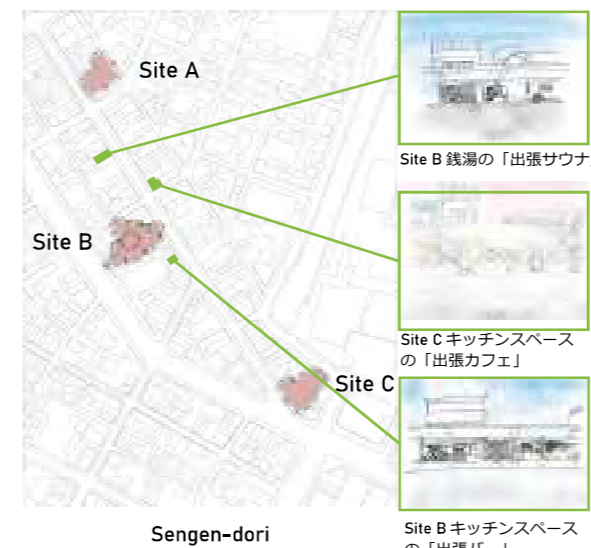


Sengen-dori

Site B

グループ提案

3人構成のグループをつくり、各人が1敷地1集住で固有の生活機能を持った集合住宅を提案。商店街でネットワークを構築し人が滞留する仕組みを考える。



Sengen-dori

Site B キッチンスペースの「出張バー」

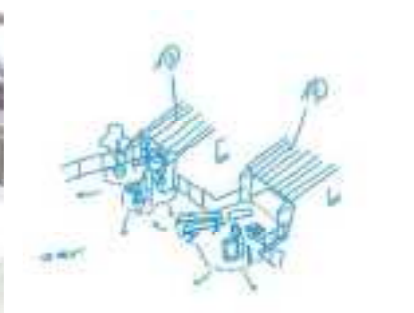
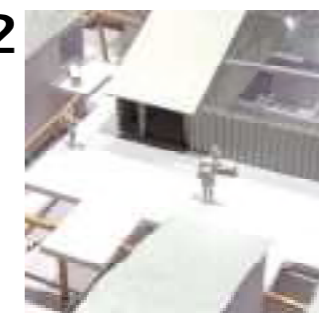
Suggestion

1. 銭湯と住戸の間に通り土間を
2. 2階テラス（洗濯物のテラス）に各住戸に繋がる出入り口を設置  
居住者の活動が散らばっていく

1



2



コモンとの関わり方  
領域や用途を規定しすぎない空間は使い手によって賑わいが起こり、暮らしに豊かさが生まれる。

subject explanation

アルベルゴ・ディフィーゾのまちづくり計画をベースに3つの計画地の集合住宅が固有の生活機能具备、まちの各所にネットワークを形成する計画。その3つの集合住宅には生活機能として、キッチンスペース、銭湯、コワーキングスペースのうちの1つが割り振られるというコードを設定。機能が欠如した生活の場で、それらを補う空間・アクティビティをつくり新しい生活のバリエーションを計画する。(上絵/ siteB 集合住宅「せんとう」)

